

# 二十歳の集い



代表の謝辞



陽融会会長からの記念品贈呈



駐屯地司令からの記念品贈呈



部隊長との記念撮影



陽融会会長との記念植樹



駐屯地司令との記念植樹



記念撮影

大久保駐屯地は、令和5年1月中旬に陽融会会長の坂下氏ご臨席のもと二十歳の集いを行いました。

駐屯地司令、陽融会会長から記念品が贈呈され、その後、記念撮影及び記念植樹を行いました。

駐屯地司令の式辞及び陽融会会長の祝辞を受けた成人者は、駐屯地所属隊員及び御来賓に対し、成人者としての抱負を力強く発表しました。

二十歳を迎えた隊員を代表して第104施設直接支援大隊岸本土長は、これから先人との繋がりを大切に、誰かの支えになるような人間になれるよう、日々精進して参ります。今後とも皆様のご指導、ご鞭撻をよろしくお願ひします。」と決意を述べ、二十歳としての一歩を踏み出しました。



令和5年3月、5名の部隊長等をはじめ、58名の隊員が転出しました。

## 転出 入 部 隊 長 等



転出 部 隊 長 等



転入 部 隊 長 等



新天地でのご活躍を  
祈念しています!

発行：大久保自衛隊協力会  
陽融会  
大久保駐屯地桃友会  
45会

編集：第4施設団本部  
第1科広報班

印刷：進見堂印刷

駐屯地司令要望事項

地域から信頼される  
駐屯地

紙面紹介

- 面
  - 二十歳の集い
  - 転出入部隊長等紹介
  - 駐屯地曹友会ボランティア活動
  - 装備品展示
- 面
  - 各部隊訓練等記事
- 面
  - 各部隊訓練等記事
- 面
  - 部隊長随筆
  - 先任の一言
  - 令和4年度団戦技競技会
  - 安否確認訓練兼顔合わせ
  - ツイッター目指せ2万人
  - 編集後記

## 装 備 品 展 示

令和5年2月上旬、京都市体育館前の広場において、京都地方協力本部と連携し、装備品展示を行いました。特大型ダンプと1/2tトラックを展示し、多くの方々が見学・乗車体験をされました。

「乗車できて貴重な経験ができ、興味を持った。」「就職の候補として考えたい。」等の好意的な意見を多くいただき、装備品展示は盛会のうちに終了しました。



1/2tトラックに乗車



特大型ダンプに乗車



ゴミ拾い



記念撮影

## 駐 屯 地 曹 友 会 ボ ラ ン テ ィ ア 活 動 会

大久保駐屯地曹友会は、令和5年2月下旬に今年度3回目のボランティア活動として駐屯地周辺(府道15号(国道24号沿い)のゴミ拾いを実施しました。会員、準会員及びその家族も合わせて41名が参加し、地域への感謝の気持ちを持って環境美化に取り組みました。

大久保駐屯地曹友会は、今後も地域の環境美化を目指して会員一丸となって活動をしていきます。



# 各 部 隊 訓 練 等 記 事



美味んば献立



美味んば献立



糧食班一同



試食会



84式無反動砲(縮射弾)の射撃



断郊走



総合優勝記念撮影



銃剣道

## 第 7 施 設 群

第7施設群は、令和5年2月、大久保駐屯地等で実施された令和4年度団戦技競技会に参加し、断郊走競技会、射撃競技会、銃剣道競技会で優勝し、3本の優勝旗を獲得しました。

また、断郊走分隊走の部で第380施設中隊安河内3尉以下9名がベストスクワッド賞、銃剣道個人陸曹の部で第381施設中隊小西2曹、陸士の部で同じく高松士長が優勝し表彰されました。

前回の団戦技競技会ではライバルの第6施設群に完敗したことから、この悔しさやバネに何故負けたのか、どうしたら勝てるのかを群全体で考えとともに、これを作戦と捉え、年間作戦(練成)計画を立て、年度当初から優勝旗奪回作戦に取り組み、練成してきました。

これが功を奏し、競技会当日、各選手は、群の名誉と自らの誇りをかけ、スタートラインかいは道場に立ち、隊員の大声援に背中を押され、これまでの練成成果を遺憾なく発揮し優勝の名譽を勝ち取りました。

本競技会を通じ、個人の戦闘技能能力の向上に加え、群、中隊の組織目標達成に向け個人の目標を設定し、それを自己管理することにより、隊員は達成感や充実感を十分に得ることができました。

## 大久保駐屯地業務隊

大久保駐屯地業務隊元気がどうか元気があれば飯が美味しい糧食班長青野一尉です。

今年度、中部方面隊給食向上施策「テーマダイニング甲子園」に32個駐屯地が参加し、1方マイは隊員のお米の喫食を増進させる味付きご飯です。

献立レシピを作成し、試食会を重ね、選考したのが「大久保美味(ひび)んば」です。

昆布茶ご飯・半熟卵と豚ひき肉入りの甘辛いヤンニョムソースが決め手です。

まさに大久保駐屯地を象徴する逸品に仕上がりました。

第一次予選は、京滋地区での写真とレシピによる選考でしたが、団広報の巧みな写真技術の協力を得て、見事予選を突破しました。

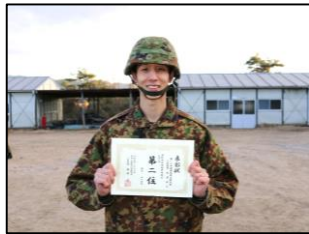
最終決戦では、代表6個部隊の食味審査を実施しました。

しかしながらどれも美味しい。そこで大久保駐屯地での提供日には駐屯地朝礼を利用して、本職自ら美味(ひび)んばの食べ方を隊員に教授し、そのまま食べ、混ぜて食べ、スープを加える「味変」により今までにない反響・満足度を得る事ができました。

まさに隊員の胃袋を掴んだ瞬間です。

結果として「最優秀賞」を見事受賞することができました。

今後も美味しい料理を提供できるよう更なる調理技術の向上に努めていきますので、糧食班を温かく見守って下さい。



表彰された長澤3曹



射撃



体力測定(競歩)



射撃予習



準優勝した整備隊



優勝した第2直接支援中隊



施設基礎作業(杭の打ち込み)



野外衛生(救急法)

## 第 3 施 設 大 隊

第3施設大隊は、令和5年3月上旬の5日間、令和4年度第3次予備自衛官招集訓練で第2中隊が担任して実施しました。

本訓練の目的は、予備自衛官の資質を涵養するとともに、知識及び技能について練度の維持・向上を図るものです。

本訓練の対象者である大阪、京都、奈良及び滋賀地方協力本部に属する予備自衛官96名が参加し、それぞれの期間に応じた積極熱心に訓練に励み、予備自衛官としての資質、知識及び技能について練度を維持、向上させました。

訓練課目は、射撃予習、実弾射撃をはじめ体力測定、野外衛生、施設基礎作業、格闘訓練等を組み込み実施しました。

特に、長池演習場で行われた実弾検定射撃では、緊張する方もいれば、昔の感覚を取り戻して積極的に集弾させる方もいて、参加者全員が真剣に取り組み、高い合格率の成果を収めました。

最終日は、担任官の第2中隊長に申告を行い、無事訓練を終了し、大久保駐屯地を後にしました。

## 第104施設直接支援大隊

第104施設直接支援大隊は、令和5年1月下旬に令和4年度中部方面後方支援隊小火器射撃競技会に参加しました。

競技会は、団体総合の部(一次部隊)、基礎となる部隊の部(部隊規模によりA・Bの2コグループ)及び個人の部(拳銃及び小銃)が設定され、各部隊から無作為に抽出された隊員によって競われました。

また、点検射三発、各姿勢5発ずつの限られた弾数により、緊張感が高まる射撃競技会となりました。

各射撃の射撃終了ごとに点数を公表することで、リアルタイムで順位が入れかわり、競技会は大きく盛り上がりました。

競技会の結果については、第二直接支援中隊がAグループ「優勝」、整備隊がBグループ「準優勝」をそれぞれ獲得するとともに、第二直接支援中隊・長澤3曹が個人の部(小銃)において「第二位」の好成績を受け、中部方面後方支援隊長からの表彰を受けました。

大隊は、各種器材の整備能力の向上だけでなく、自衛官として必要な戦技においても各人の能力を向上させて、被支援部隊のニーズに即応できるように大隊隊員一丸となって更なる精進を重ねていく所存です。



第 3 0 7 ダンプ 車 両 中 隊



長距離機動訓練を行う  
特大型ダム車両



入念な経路確認

第307ダンプ車両中隊は、中部方面隊唯一のダンプ車両専門部隊としての練度及び災害対処能力向上のため、令和4年度第2回長距離機動訓練を実施しました。この訓練は2夜3日におたし、大久保駐屯地（宇治市）から一般道を利用し、和歌山県紀伊半島を下し、三重県伊勢志摩を眼下に北上した後、名阪国道を抜け、駐屯地に帰隊する総走行距離約630kmに及ぶ機動訓練です。本機動訓練では、事前に隊員独自調査した情報を基に、車幅や道路状況などを選定して経路を決定し、ベテラン操縦手は、免許取得したばかりの隊員を含む若年操縦手の指導と矯正にあたり、若年操縦手は、初めて通る道路の表情を浮かべ、中、紀伊の美しい海を目にすると歓声を上げる場面もあり、緊張が次第に解れ徐々にスムーズな運転ができるようになりました。中隊は、今後も計画的に長距離機動訓練を実施して、ベテラン操縦手は勿論、若年操縦手の育成を主軸に、中隊全体の車両操縦技術の練度を底上げし、専門部隊としての任務遂行能力を向上させていきます。

第 1 0 2 施 設 器 材 隊



混合橋の構築



器材隊創隊50周年記念式典

第102施設器材隊は、令和5年1月下旬の約1週間、三重県久居市に流れる雲出川において令和4年度方面隊施設科合同訓練（渡河）に参加しました。本訓練は、師団の渡河攻撃に対する施設活動を行う増強施設群の行動のうし門橋構築、運航及び81式自走架柱橋と92式浮橋による混合橋を構築し、渡河作業の総合的な練度の向上を図りました。また、令和5年2月下旬、大久保駐屯地において器材隊創隊50周年記念式典を開催しました。第102施設器材隊は、昭和48年3月27日に大久保駐屯地において創隊され、第4施設団隷下部隊として今年で創隊50周年を迎え、協力会やOBの方々とともに盛大に記念行事を行うことができ、大変光栄に思っています。これまで、大変光栄に思っています。致し、先人の労苦に感謝の意を表するとともに、今後も器材隊一丸となって国防の任務に邁進して参りますので、ご支援・ご協力のほどお願い申し上げます。

第 4 施 設 団 本 部 付 隊



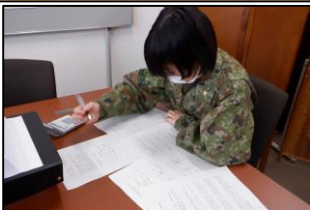
野外炊事支援（調理）



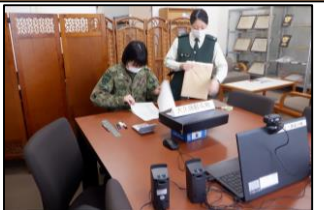
野外炊事支援（食材切り込み）

第4施設団本部付隊は、令和5年1月下旬から約1週間、三重県久居市雲出川で実施された令和4年度方面隊施設科合同訓練（渡河）に参加し、指揮所の開設や維持・運営、野外炊事等を実施しました。特に団本部付隊は、付隊本部を主力として、陸上自衛隊久居駐屯地のグラウンドに野外食堂を構築、旧外来宿舎裏で炊事所を設営し、炊事車を使用して約400名の食事を提供しました。炊事経験の浅い隊員も包丁を握るのささ初めの隊員も1月下旬の寒空の中、食材の仕込み、調理までを早朝から夜間まで愛情を込めて実施し、美味しい料理とふっくらした炊き立てのご飯を提供することができ、方面隊施設科合同訓練（渡河）に参加した第4施設団はもとより中部方面隊の師と士気高揚に寄与するとともに、炊事支援を通じて付隊本部の炊事能力も向上することが出来ました。

第 3 9 7 会 計 隊



会計特技検定



会計特技検定

第397会計隊は、令和5年2月中旬に令和4年度会計特技検定を実施しました。中部方面会計隊所在部隊が対象者となりますが、コロナ禍を鑑み各駐屯地ごとリモートで実施しました。会計特技検定の目的は、隊員の特技等の練度を評価判定するとともに、会計実務能力の進歩向上を促すことです。本検定については、「初級」と「上級」の二つの区分があり、「初級」については、後期教育終了後6ヶ月以上経過した者、「上級」については2年以上経過した者、1年以上経過した者がそれぞれ対象となります。第397会計隊では、「初級」2名及び「上級」1名が受検対象者となり、特に「初級」受検者2名に対しては、陸曹が教官となり実業務の合間や課外を活用しながら親身に指導し、練成も実施していきましました。その成果もあり、全隊員90%以上の高得点で合格することができました。今後とも隊員一人一人が会計実務能力向上に努め、円滑な各部隊の隊務運営を会計的見地から支えていけるように精進していく所存です。

第 3 1 8 基 地 通 信 中 隊 大 久 保 派 遣 隊



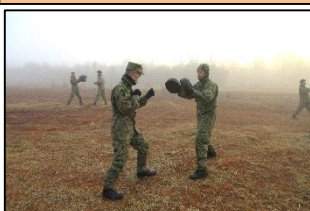
PCによる学科試験



動画編集

第318基地通信中隊大久保派遣隊は、中部方面システム通信群で実施されたシステム通信競技会と基地システム通信大隊で行われた通信所能力評価に参加しました。競技会の内容は、動画撮影と編集作業が採点され派遣隊全員で知恵を出し合い工夫しながら取り組み、これからのシステム通信科隊員としての新たな能力の必要性を感じた競技会となりました。結果については、派遣隊の中で1位を獲得しました。通信所能力評価については、通信所ごとの基本的行動について評価される部隊のテストです。今回実施された学科試験については業務システムにおいてオンラインで実施され、コロナ禍時代に合わせたテストのやり方、変化を感じた試験となりました。派遣隊は、環境が変わるなかにおいても基地システム通信組織を維持し、駐屯地所在部隊の作戦進展に伴うシステム通信所要の変化にも柔軟に対応すべく演練し精進してまいります。

第 3 後 方 支 援 連 隊 第 1 整 備 大 隊 支 施 設 整 備 隊



演習場での格闘練成



駐屯地での格闘練成

第3後方支援連隊第3後方支援連隊第1整備大隊施設整備隊は、今年2月に第2回格闘検定を行いました。今検定は今年度第2回目の検定で基本となる第3級検定を受検して練度を確認しました。今検定の受検にあたり練成は今年に入り毎朝継続して行い、アップから始めて戦術格闘等やパンチ、蹴り、回転運動、必銃動作などを駐屯地会計隊と合同で練成しました。格闘指導官の懇切丁寧かつ確実、厳正な指導の下、各部隊は常に安全と基本を忠実に格闘検定に向けて練成しました。練成は日頃使わない筋肉を使う為、筋肉痛が毎日のように続きましたが、日々整理運動やストレッチを実施しつつ、演習（青野ヶ原演習場）間でも毎朝間稽古として練成を継続しました。来年度に行われる格闘検定は第2級検定を受検するので今回検定してきた技術を活かして次年度も頑張っていきたいと思っております。



部隊長随筆 先任の一言



第397会計隊長 3等陸佐 追沼一博

第397会計隊は、本部班、契約班、会計班、給与班の4個班で編成され、駐屯地所在部隊の会計支援が主任務です。

普段は、駐屯地事務室内において、所在部隊から調達要求をされたものを業者と契約し、その所要を充足したり、駐屯地で使用した電気料等の光熱水料の支払等に従事しています。会計科の使命は、「予算、経理その他の会計活動に任じ、作戦目的達成のため、各部隊を支援するにある。」であることから、部隊と密接に連携することが必要です。

駐屯地内で勤務している会計隊も情勢が緊迫し近傍演習場等に展開する可能性もあります。自分たちの身は自分たちで守りながら、会計支援をすることは、場所が変わっても同じです。会計隊は、演習場にて部隊を展開し、警戒防護施設を開設したり、防護マスク装脱面訓練、射撃訓練等、個人及び組織として訓練練度を段階的に向上しています。



射撃訓練



給与の支払い業務



第4施設団本部付隊 先任上級曹長 准陸尉 石川 定治

先日、新型コロナウイルス感染症対策のマスク着用について、政府は、3月13日から屋内・屋外を問わず個人の判断に委ねるとした上で、医療機関を受診する際や通勤ラッシュ時といった混雑した電車やバスに乗る際にはマスクの着用を推奨するなどを決定したとのニュースを目にした時、私個人の意見として「曖昧」と感じました。個人の判断に委ねるといことは、それらの規制が個人の主観と感覚という各自の物差しで形付けられるものであり、トラブルさえ引き起こしかねないと感じました。

服務指導において、曖昧は、指導のあり方に困惑をもたらしかねないと感じています。

例えば自衛隊でよく言われる「あるべき姿」も曖昧であれば個人の物差しで長短で「昔はこうだった」とか「以前などはこうだった」とかその姿が鈍ってしまうのではと感じています。

最近では、義務を果たさず権利ばかりを主張する人が増えたと言われていますが、感覚が鈍ってしまったらいい感じも感じています。

本来は、組織から任せられた職務・任務を達成するからこそ、その対価として給料が振り込まれる、という順番のはずなのに、それが「毎月、決まった額が口座に振り込まれる」ことが当たり前になっていくことで、我々は、この本来の順番を忘れてしまいがちで、もらうことは権利だと思いついていくのかも知れません。

宿題をやっつけないのに宿題を減らせと言われても説得力はなく、もはや危険とさえ感じます。言動に、説得力と納得が生まれるよう、そして義務を果たすよう指導し、自分自身も義務を果たして行きたいと思えます。

令和4年度団戦技競技会 安全確認訓練 兼顔合わせ

令和5年2月下旬、長池演習場において令和4年度団戦技競技会を実施しました。不整地を走り射撃を行う分隊走、装備する火器の射撃及び銃剣道で体力・気力・技術を競いました。隊員一人一人が部隊の名誉をかけて日頃の練成成果を發揮し、熾烈な戦いが随所で繰り広げられました。銃剣道において「群対抗の部」優勝、第102施設器材隊が射撃「隊対抗の部」優勝、第307ダンプ車両中隊が分隊走・射撃「中隊対抗の部」において見事優勝し、盛会のうちには競技会は終了しました。



大久保駐屯地は、3月3日(金)奈良県橿原市において同県自衛隊家族会と緊急事態発生時を想定した留守家族の安全確認訓練を行いました。これは駐屯地の隊員が災害派遣等に後顧の憂いなく出動できるよう関係部外団体と共に留守家族支援を行う施策の一環であり、大久保駐屯地では令和3年度に奈良県・京都府において両府県の家族会・隊友会と協定を締結しています。今回は、紀伊半島沖で地震が発生して橿原市在住の留守家族が連絡不通という想定のもと、厚生科から連絡を受けた支援員(家族会)の自宅に赴き無事を確認するという一連の流れを演練しました。また訓練の場を活用し、厚生科員を交えて支援員・被支援員の顔合わせを行ったほか、橿原市役所危機管理課 主幹 松實氏と厚生科員による避難場所における支援員への個人情報提供等に係る意見交換を行い、今後の業務の資を得ました。駐屯地では、引き続きより実効性の高い家族支援施策を推進し即応態勢の充実に励み、地域の皆様への期待と信頼に応えて参ります。



橿原市役所危機管理課 主幹 松實氏と厚生科員の意見交換



被支援者家族、家族会会長、厚生科員による顔合わせ

目指せ2万人

2020年4月22日に大久保駐屯地公式ツイッターを開設し、部隊の活動状況、日常の訓練風景、隊員の様子等を配信して参りました。

現在約11700名のフオロワーの皆様への応援を受けることができ、自衛隊及び大久保駐屯地に対する関心の深さを直接感じることができました。また先の話にはなりますが、目標である2万フオロワー達成に向けて引き続き、大久保駐屯地一丸となり皆様の期待に応えられるよう、努力するとともに普段見ることのできな自衛隊を配信する等、ツイッターの充実を図っていきます。今後とも大久保駐屯地公式ツイッターを宜しくお願いいたします。

大久保駐屯地 Twitter QRコード

編集後記 大久保駐屯地広報紙「やましろ」